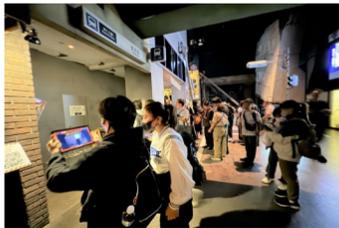


団体名	鴨川市国際交流協会						
事業名	防災教室事業						
実施期間	令和6年10月20日（日）、令和6年11月24日（日）						
場所	東京臨海防災広域防災公園(そなエリア東京)、学校法人令徳学園 鴨川令徳高等学校						
参加者数	外国人留学生	日本人学生	地域住民 (留学生以外の外国人)	地域住民 (外国人除く。地域のスタッフ含む)	申請団体スタッフ	その他	合計
	18	0	10	7	8	0	43名

<実施内容>

<p>1 外国人のための防災バスハイク</p> <p>(1) 東京直下型72hツアーへの参加</p> <p>余震が繰り返される駅前の商店街や住宅地のジオラマを移動し、タブレット端末で英語や中国語で表示されるクイズに答えながら災害時の正しい行動を学んだ。</p> <p>家や屋外に見立てたエリアでは、食糧や水以外にも簡易トイレやドライシャンプーなどの衛生用品も用意しておくことを学んだ。</p> <p>最後に震度7の地震発生時の揺れを再現したコーナーでは、東京で大地震が起きたとき、鴨川市も震度6、7クラスの揺れが来る可能性があることも震源地マップで確認した。</p> <p>(2) 「基本の備え」エリアの見学</p> <p>災害時の状況やタイミング、人それぞれの特性や暮らしに合わせた備蓄品の展示を見学。ハラル認証のあるアルファ化米は、宗教上食べられないものがある人でもこの認証マークがあることで安心して食べられることを知った。</p> <p>2 防災おしゃべりカフェ</p> <p>(1) 講義「在宅避難と日頃の備え」</p> <p>枕元にスリッパなどを用意し、壊れたガラスなどの上を素足で歩かないようにすることや家具が倒れてこないように固定することなどの命の守り方や水や食べ物以外にトイレや衛生用品など、健康を守るために必要なものを予め非常持出袋や自宅に用意することの重要性を学んだ。</p> <p>また、災害時の配給は普段食べ慣れたものではないため、ストレスになるかもしれないことに触れ、特に水、食べ物、カセットコンロとガスボンベの3つが備えてあれば、温かい物が食べられること、また、食べ慣れた味のものや栄養バランスを考えたものを備蓄することが重要であるということを理解した。</p> <p>(2) 実践！お湯ポチャレシビ</p> <p>日本人ボランティアと協力して米を鍋で炊いたほか、切干大根にツナ缶、トマトジュースを加えてよく揉み込んだイタリアンサラダを調理した。</p> <p>また、鴨川市はフィリピン人が多く在住しているため、フィリピンの定番料理にも挑戦。ミックスビーンズや乾燥野菜を使用した豆入りスープ「ギニサンムンゴ」のほか、焼き鳥缶に酢、胡椒を加えた鶏の煮込み料理「アドボ」を作った。</p> <p>(3) おしゃべりタイム</p> <p>日本人ボランティアと今日の防災講義や料理の感想のほか、将来の夢、日本で行ってみたいところ、地域住民との交流について会話を交わした。</p>

<記録写真>



駅での避難行動を確認



防災食作り体験



日本人ボランティアとおしゃべり

<参加者からのコメント>

<p>蔡 梓濠さん (中国) /CAI ZIHAO</p> <p>ツアーに参加し、自分の国の言葉で災害時の行動を知ることができ、安心しました。ハラル認証のあるアルファ化米を見て、宗教上食べられないものがある人がいることを日本人が教えてくれました。ほかに災害のときに用意するものがたくさんあり、楽しく見学できました。</p>	<p>施 禹江さん (中国) /SHI YUJIANG</p> <p>お米は美味しく炊けましたが、日本で大きな災害に遭ったことがないので想像ができませんが、災害時に自分の好きな食べ物が食べられないのは辛いと思いました。自分で備蓄するときには、好きなものを選んで備えておきたいです。日本人を含む地域住民と話せたことがとても良かったです。今後も交流したいです。</p>
---	--

英語名称 (英語版作成用)

団体名	Kamogawa International Relations Association
事業名	Disaster Prevention Lecture